

ARで水害「体験」

鎌ヶ谷・南部小で防災授業



ARゴーグルを着けて歩く児童ら（24日、鎌ヶ谷市で）

し、深さ約60センチの水害を疑似的に「体験」した。ARゴーグルを着用した児童らは、傘で足元を慎重に確認しながら歩き、水害時の避難について学んでいた。女子児童（12）は「水害をこれまで体験したことがなく、恐怖を感じた。常に災害が起きることを想定して、避難の仕方を考えておきたい」と話していた。

正しい防災知識を学び、災害への意識を高めてもらおうと、鎌ヶ谷市立南部小学校で24日、6年生の児童約30人を対象にAR（拡張現実）ゴーグルなどを用いた授業が開かれた。

NTT東日本千葉西支店（船橋市）が主催した。授業では、同市の地理的な特徴や過去に起きた自然災害、ハザードマップの見方などについて説明した。2013年10月の台風26号で、実際に浸水被害を受けた地元住民は、子どもたちに体験談を伝えた。その後、AR技術を活用

『読売新聞』2023年6月25日付